

アメリカと日本の医療から考える

The Future of Nursing 2019.8.24 戸畑

木村 千尋

看護師

RN,MSN-APRN

雲南市立病院(島根県)

- ・ 自己紹介
- ・ アメリカと日本の医療（ヘルスケア、看護）
- ・ 健康に影響する社会的要因
- ・ The Future of Nursing～看護は何を目指すか？

経歴

1997 日赤看護大学卒業後、看護師として医療センター勤務

2000 NCLEX-RN取得後、ナーシングホームで看護

2002-2007 ジョージワシントン大学病院 看護師

2004-2007 メリーランド大学修士課程 老年NPコース

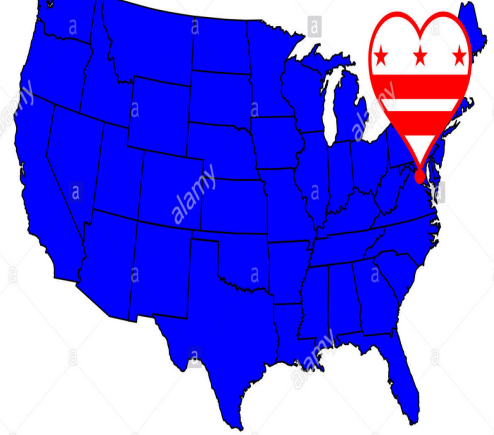
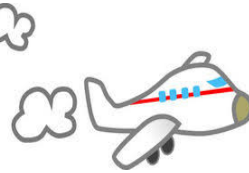
2008-20016 ナーシングホーム NP

2014-2016 ジョージワシントン大学修士課程 緩和ケアNPプログラム

2017 訪問看護ステーション うんなん (島根県)

2018 島根大学医学部看護学科 後期博士課程在学

2019 地域医療振興協会 特定行為研修



alamy stock photo

ED58KW
www.alamy.com

アメリカの医療 システム思考

2000 To Err is human

2001 Closing the Quality Chasm in Health Care

こんなに人が医療によって被害を受けている…

何が良いかはわかってるのに、実際には行われていない…



「質の良い医療のためには、

良いシステム

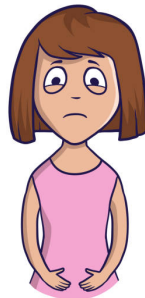
が必要！」

アメリカの医療 システム思考

aPTT が高くなりする…
肥満患者へのヘパリンプロトコールは？



また自己抜去…本当に尿閉？
尿カテ抜去のプロトコール



転倒とベッド柵？



ケアをシステムと考え、今あるエビデンスと照らしあわせ
安全な医療を目指さそう！

アメリカの医療



脊椎損傷の15%が銃などの暴力が原因。その後の生活困難、うつ、自殺、感染症など多くの問題がある。

現実は厳しい...



2017、政府は医療用麻薬の過剰使用による危機的な状況（1日130人以上が死亡）に警告をならした。うつや社会的孤立、失業など関係している。

アメリカの医療 目的志向

“The future of nursing”

2010 教育の推進、実践範囲や役割の拡大などを具体的な数値を掲げて提案している。

2020 今、全米各地でミーティングを行い、実際の課題、方向性を話あっている。キーワードは健康の社会的要因への介入。

大学院（NP）の入学式

「NP実践の目的は **EBPの推進** と **健康格差の縮小** です！」

アメリカの医療 目的志向



2010 Patient Protection and Affordable Care Act

「全ての人に、価値の高い医療を提供する」

$$\text{価値(質)} = \frac{\text{アウトカム(結果・効果)}}{\text{コスト(人的・物的資源)}}$$

Transformative Change

医療の質とは、本当の目的は何か？を
医療者に問い健康について考えさせた
(私見)

日本の医療

2000 介護保険

2011 地域包括ケアシステム

2015 新・総合事業

“看護の将来ビジョン”

いのち・暮らし・尊厳をまもる。医療・介護・保健つなぐ。

様々な人が地域で共に健康に生きるための
多元的・包摂的な仕組みづくり

そして今...どのような医療を目指しますか？

Triple Aim



保健医療 2035提言

目標

高水準の健康医療を享受し、満足・納得を得る。

持続可能な保健医療システムの構築。

日本と世界の繁栄に貢献する。

主体的選
択を社会
で支える

医療の
価値を
高める

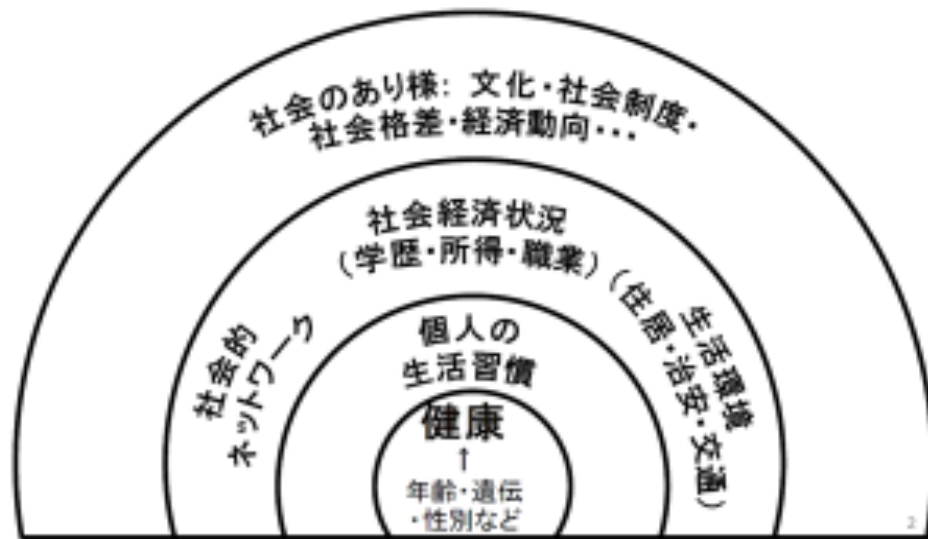
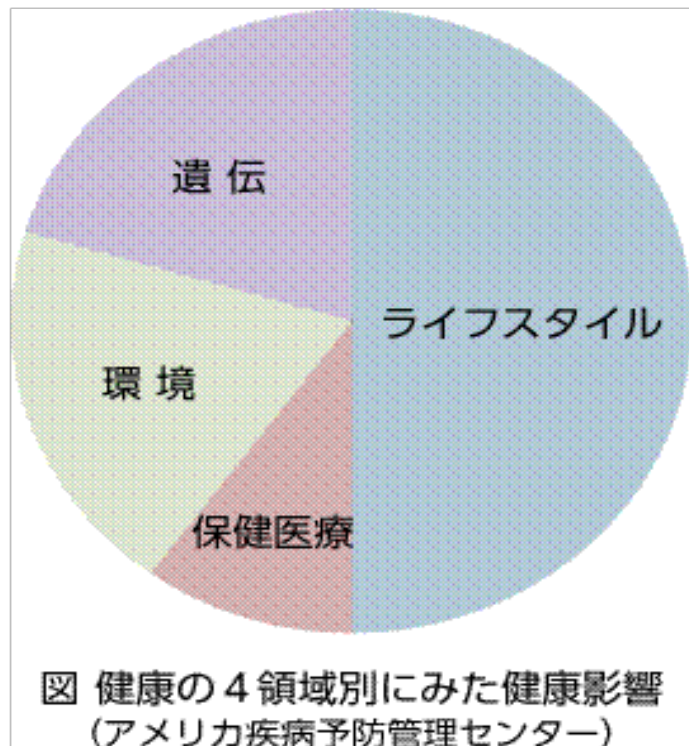
世界の医
療をリード
する

(ちょっと進んで) どんな社会を目指しますか？



Social Determinants of Health

健康の社会的要因



SDOHとは

健康に大きく影響する生活状況のことであり、世界～その地域における政治や経済、資源といった人的な影響によってそれらの状況は形作られている。

身近な事例を思い浮かべると…？

訪問看護

夜、しばしば緊急訪問に呼ばれるが、話をすると落ち着く高齢の女性。同居家族は関わりが少ない。

内科病棟

外来治療を中断し心不全増悪で入院を繰り返す中年男性。独居で非正規採用の仕事を数回転職している。

訪問看護

脊損の中年女性。家事のため車いすでの時間が長く、褥瘡を繰り返している。

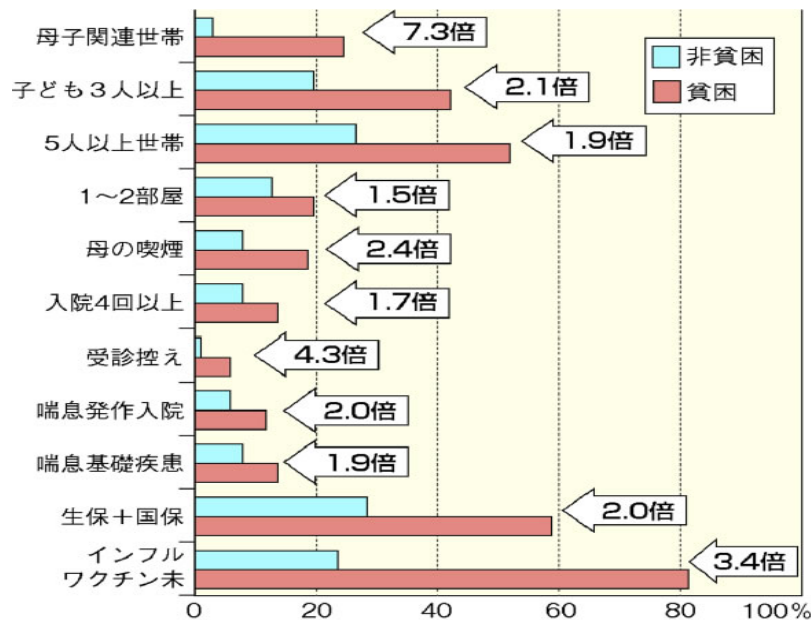
中学校

毎夏、熱中症の生徒を出す中学校の部活。不登校の生徒に対する教育の場がない。

小学校

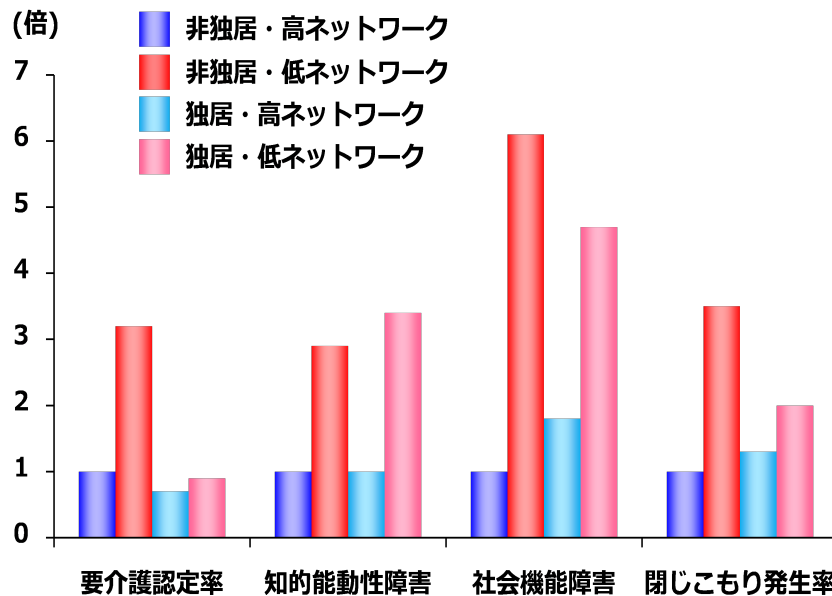
通学中に交通事故が起こった。高齢ドライバーの事故が多い。

データでみる私たちの健康とSDOH



貧困、非貧困世帯での比較 (入院)

日本小児科学会雑誌 2015



健康長寿医療センター研究所 2019

社会的健康要因 in 雲南市



総人口 約38000人

高齢化率 38.69 %

単独世帯 18 %

労働者数は15歳以上人口の約6割

失業率 2%

交通手段

食生活 (タンパク質や野菜の摂取量)

エアコンのない家屋の割合

不登校児童の人数

学力、学歴

アルコール関連の受診数

喫煙率

健康診断、予防接種率

ひきこもり、社会的ネットワークの利用

延長保育の利用数と家族構成

戸畑市の健康の社会的要因は？



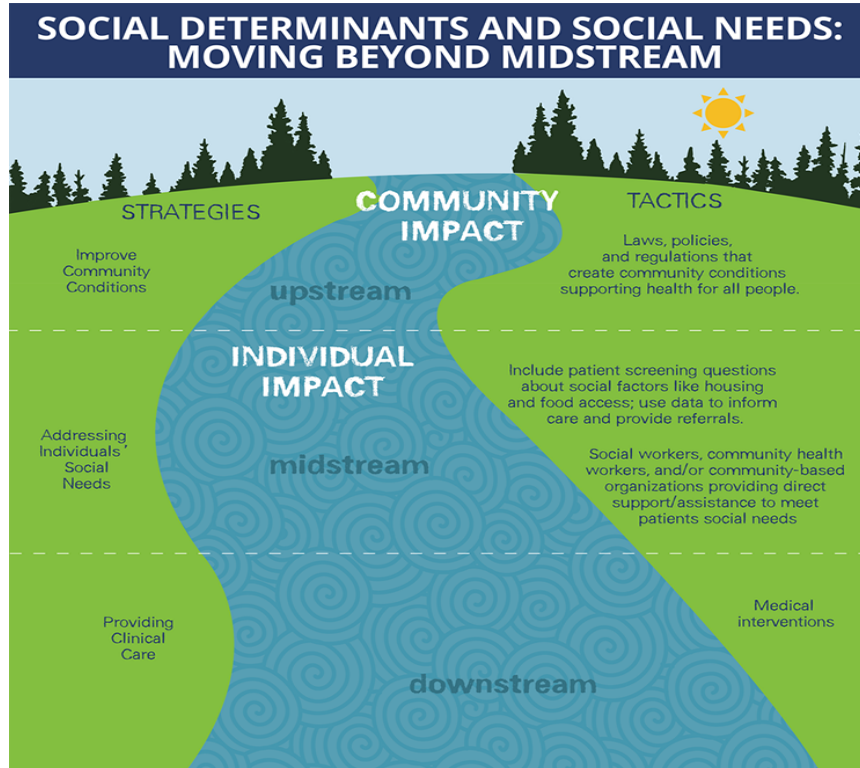
人口 59000 人

高齢者率 29.6%

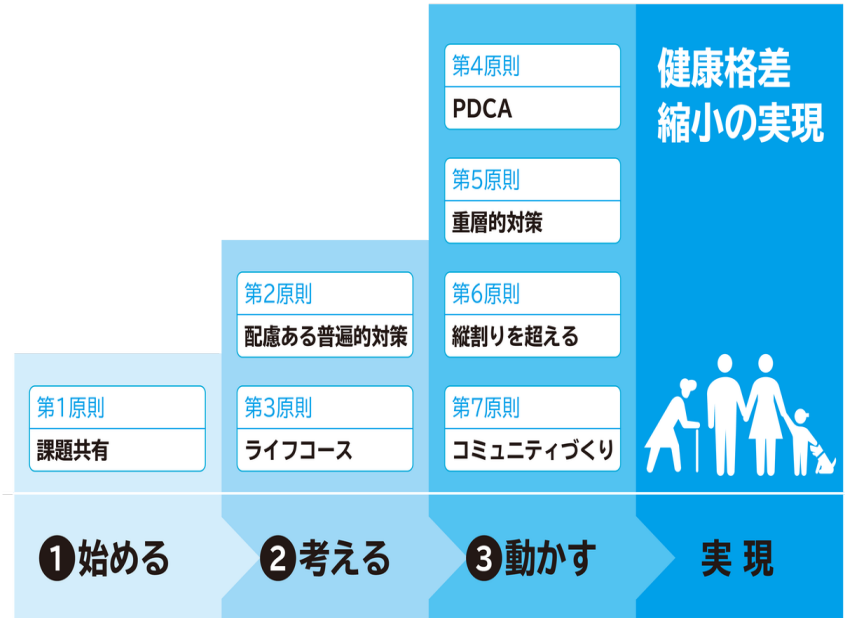
単身世帯 4割

失業率 5%

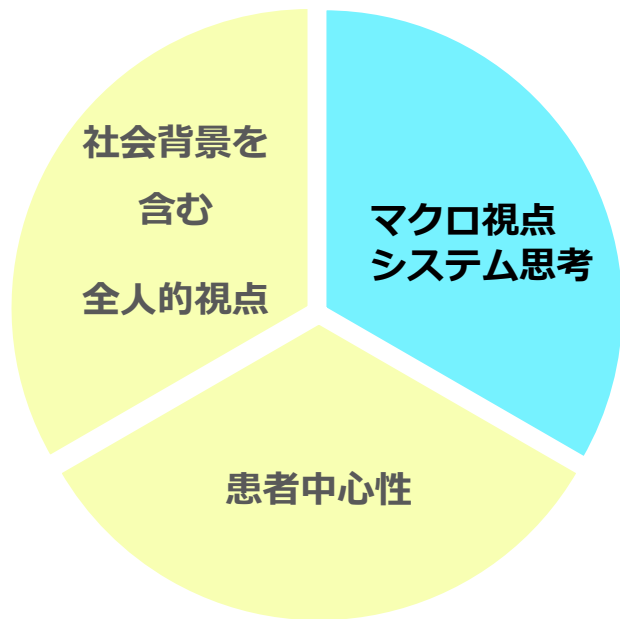
実際の活動方法



■ 健康格差を縮小するための3つの段階



The Future of Nursing



- ① 目の前の患者のその場でのケアにとどまらず、視野を広げて、健康問題の源について社会的な要因を考える。（マクロ視点）
- ② 課題を関係者と共有しともに解決する。（協働精神）
- ③ 健康問題の根本的な解決は、その要因が何であるか、どれだけの影響を及ぼすか、他の要因との関連性などを数値化することで、効果的な介入が可能となる。（システム思考）
- ④ 私たちが、これからの医療を形作ってゆく！という気持ちでできることから始める。（リーダーシップ）

参考文献 ウェブサイト

- Sakurai, Ryota (2019) Poor Social Network, Not Living Alone, Is Associated With Incidence of Adverse Health Outcomes in Older Adults. J Am Med Dir Assoc. doi: 10.1016/j.
- Causes of Spinal Cord Injury for patients admitted with SCI in 28 hospitals enrolled in the NSCISC's SCI Model System from September 2005 to March 2015.
- 地域包括ケア研究会（2019）平成30 年度老人保健健康増進等事業、2040 年：多元的社会における 地域包括ケアシステム
- 医療科学研究所 <http://www.iken.org/project/sdh/index.html>
- Institute for Healthcare Improvement <http://www.ihl.org/>
- WHO 神戸センター https://extranet.who.int/kobe_centre/ja
- 厚生労働省 保健医療2035 提言書
<https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/shakaihoshou/hokeniryou2035//future/>
- e-Stat 統計でみる日本 <https://www.e-stat.go.jp/>